

第 34 回流域委員会未配布資料(鶴見川水系の特徴と課題:中川委員)

[出典]:第 15 回 河川整備基本方針検討小委員会 資料一覧((平成 17 年 3 月 29 日)

資料 2 - 2 鶴見川水系の特徴と課題

[参考URL]:次の資料のホームページアドレスです。

<http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai/shakai/050329/pdf/s2-2.pdf>

## 鶴見川水系の特徴と課題

### ●浸水被害の頻発に対する流域一体となった総合治水対策

- ・ 昭和 30 年代からの流域の著しい市街化により保水・遊水機能が低下し、浸水被害が頻発
- ・ 流域が一体となった総合治水対策を全国に先駆けて実施
- ・ 総合治水対策の進捗により浸水被害は減少傾向
- ・ 防災調整池の埋め立てなど諸課題が顕在化
- ・ 特定都市河川浸水被害対策法の適用により浸水被害対策を強化

### ●水環境改善の取り組み

- ・ 汚濁負荷の増加、地下水流出量の減少により、水質が悪化したが、下水道普及等によりある程度まで改善
- ・ 河川流量に占める下水道処理水の割合が高い
- ・ 下水道管理者等と連携した水質改善

### ●流域における自然環境の保全と活発な市民活動

- ・ 流域に残された貴重な自然環境の保全
- ・ クリーンアップ活動や環境学習など流域での活発な市民活動

鶴見川流域では、昭和30年代中頃から流域の急速かつ過密な市街化により保水・遊水機能が急減し、浸水被害が頻発。

著しい市街化の進行

昭和30年代中頃より、鉄道網、幹線道路網が流域全体を上下流問わず縦横断に整備

昭和33年：市街化率約10%  
人口：約45万人



昭和41年：市街化率約20%  
人口：約70万人



昭和50年：市街化率約60%  
人口：約120万人

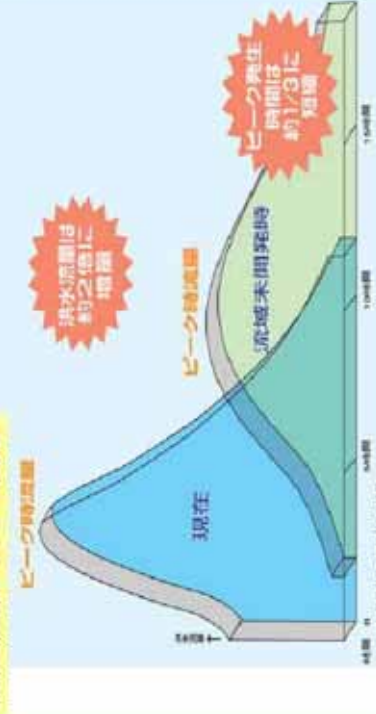


平成16年：市街化率約85%  
人口：約188万人



市街化の影響

流出形態が大きく変化



低地部を蛇行する河道特性も影響して浸水被害が頻発

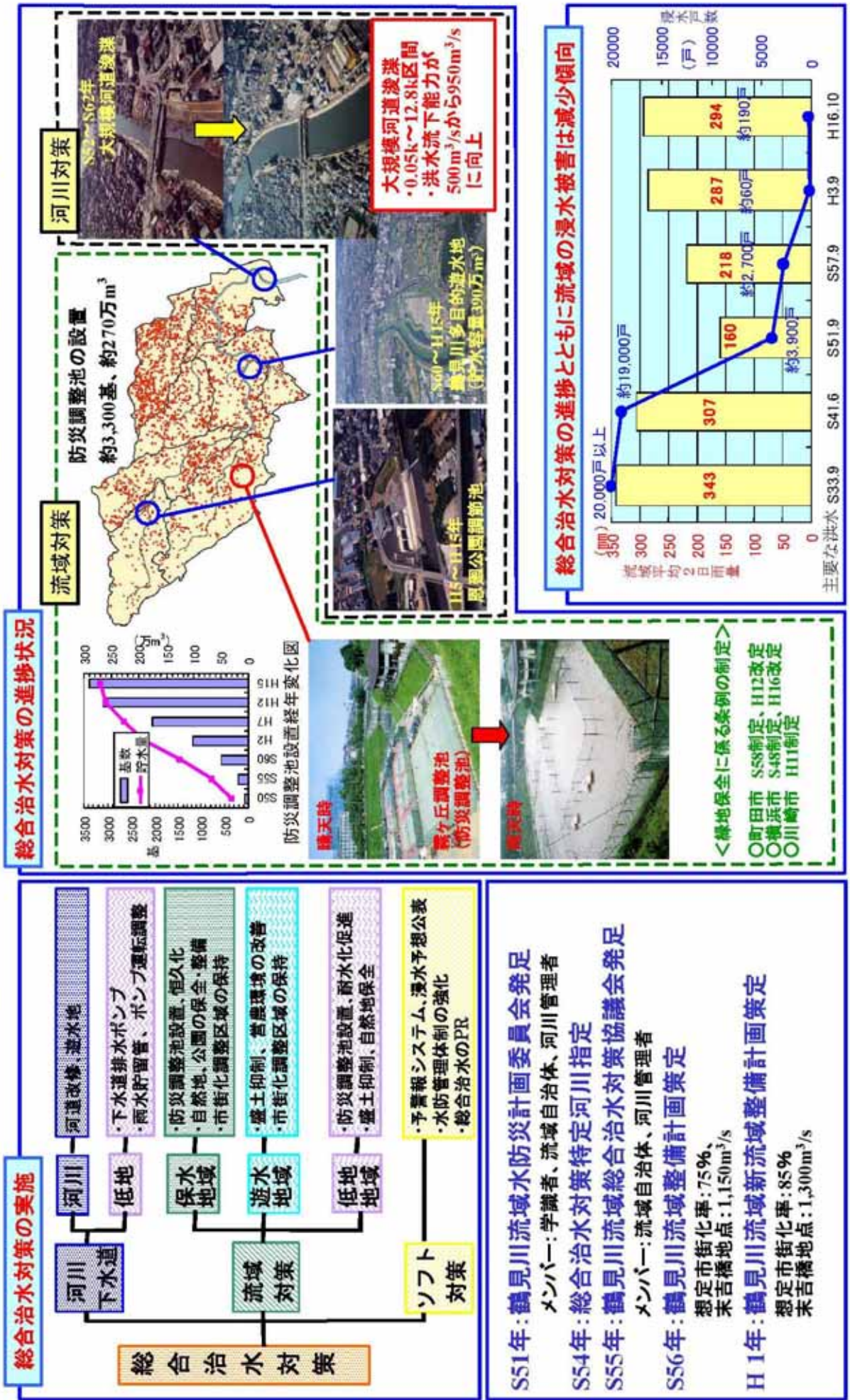
昭和33年、昭和41年、昭和51年、昭和57年、平成16年、令和3年、令和4年、令和5年、令和6年、令和7年



主な洪水と治水対策

S14	直轄事業に着手、改修計画策定 計画高水流量 650m <sup>3</sup> /s
S33.9	洪水(台風22号、戦後最大) 流域平均2日雨量 343mm 流末吉橋ピーク流量 510m <sup>3</sup> /s 浸水戸数 20,000戸以上
S41.6	洪水(台風4号) 流域平均2日雨量 307mm 流末吉橋ピーク流量 500m <sup>3</sup> /s 浸水戸数 約19,000戸
S42	一級水系に指定
S43	工事実施基本計画策定 計画高水流量 900m <sup>3</sup> /s
S49	工事実施基本計画改定 基本高水のピーク流量 2,300m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 1,800m <sup>3</sup> /s
S51.9	洪水(台風17号) 流域平均2日雨量 160mm 流末吉橋ピーク流量 690m <sup>3</sup> /s 浸水戸数 約3,900戸
S54	総合治水対策特定河川に指定
S56	鶴見川流域整備計画策定
S57.9	洪水(台風17号) 流域平均2日雨量 218mm 流末吉橋ピーク流量 1,050m <sup>3</sup> /s 浸水戸数 約2,700戸
H1	鶴見川新流域整備計画策定
H3.9	洪水(台風17号) 流域平均2日雨量 287mm 流末吉橋ピーク流量 1,020m <sup>3</sup> /s 浸水戸数 約60戸
H6	工事実施基本計画改定 基本高水のピーク流量 2,600m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 1,800m <sup>3</sup> /s
H15.6	鶴見川多目的治水地帯完成(S60着手)
H16.10	洪水(台風22号) 流域平均2日雨量 294mm 流末吉橋ピーク流量 1,070m <sup>3</sup> /s 浸水戸数 約190戸

流域が一体となった総合治水対策を全国に先駆けて実施。対策の進捗により浸水被害は軽減。



### 河川対策

S52～S62年  
大規模河道浚渫

大規模河道浚渫  
・0.05k～12.8k区間  
・洪水流下能力が  
500m<sup>3</sup>/sから950m<sup>3</sup>/s  
に向上

### 流域対策

防災調整池の設置  
約3,300基、約270万m<sup>3</sup>

S60～H15年  
鶴見川多目的進水地  
(貯水容量390万m<sup>3</sup>)

H15～H15年  
恩賜公園調整池

### 総合治水対策の進捗と浸水被害の減少傾向

年	浸水被害戸数
1980	380
1985	300
1990	250
1995	200
2000	160
2005	100
2010	50

流域平均2日雨量

主要な洪水 S33.9 S41.6 S51.9 S57.9 H3.9 H16.10

＜耕地保全に係る条例の制定＞

- 町田市 S58制定、H12改定
- 横浜市 S48制定、H16改定
- 川崎市 H11制定

防災調整池の埋め立ての発生などの諸課題が顕在化。  
『特定都市河川浸水被害対策法』の適用により、総合的な浸水被害対策を強化。

総合治水対策を取り巻く諸課題の顕在化

○流域からの流出を抑制する防災調整池(民間管理)に埋め立てが発生



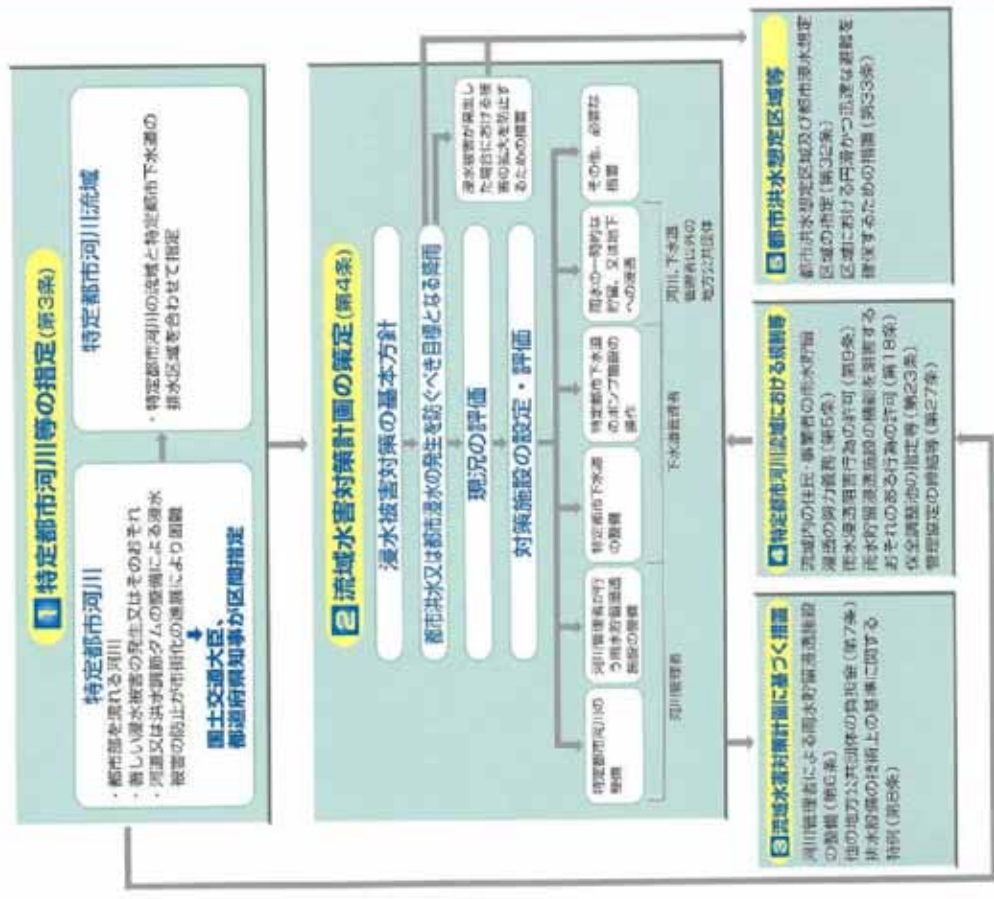
○鶴見川以外の流域では、流域対策の実施が十分ではない



特定都市河川浸水被害対策法の適用へ

- 防災調整池の保全指定(埋め立て等の届け出義務による機能維持)
- 河川管理者、下水道管理者、地方公共団体の長が共同して、流域水害対策計画を法定計画として策定し、総合的な浸水被害対策を計画的に推進

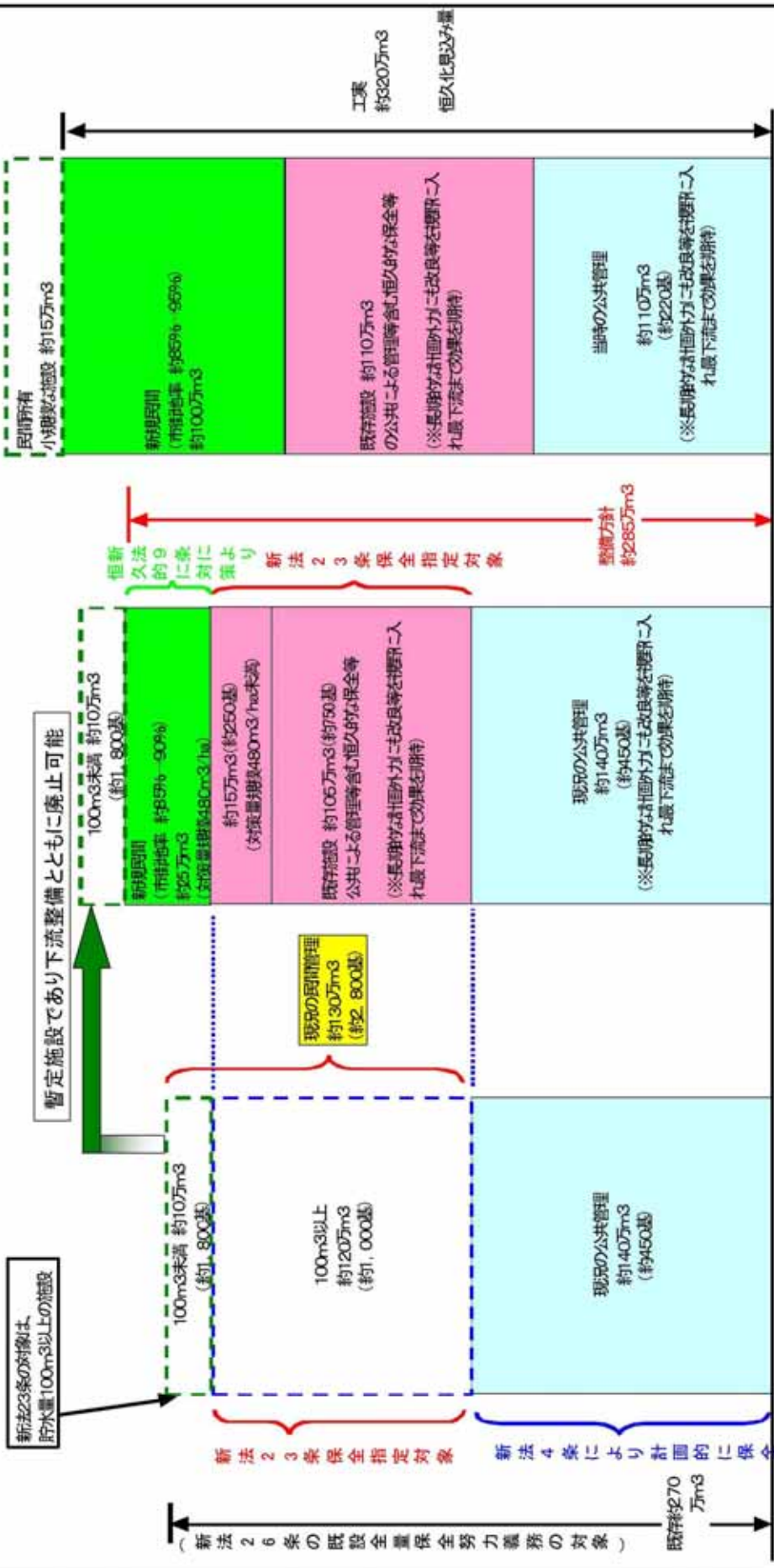
「特定都市河川浸水被害対策法」の概要



# 鶴見川水系

## 特徴と課題（鶴見川の流域対策）

### 保水対策の考え方



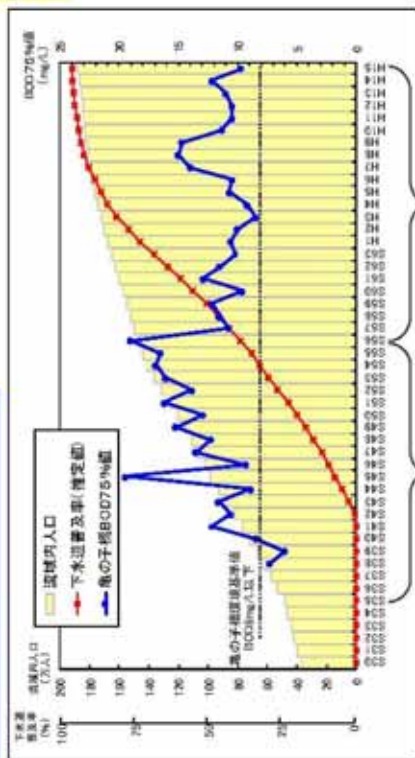
平成6年工事業実施基本計画

新指針画（河川整備基本方針）

現 況

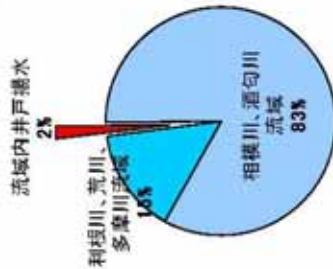
水質は中流部の一部区間で環境基準を満足しておらず、今後の水質改善には関係者で連携した取り組みが必要。

流域の市街化と水質の変遷

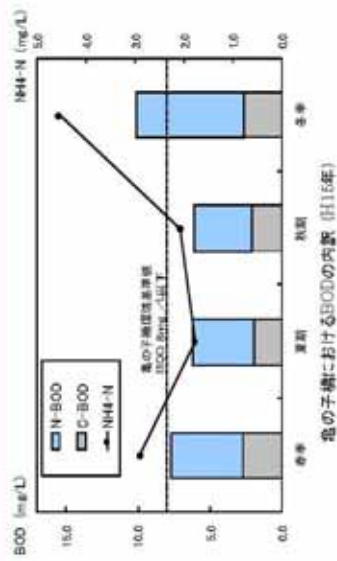


人口や市街地の増加により汚濁 下水道普及率の向上等により 負荷が増加。水質の悪化が進行。水質はある程度まで改善。

都市用水の水源は、  
98%を他流域に依存



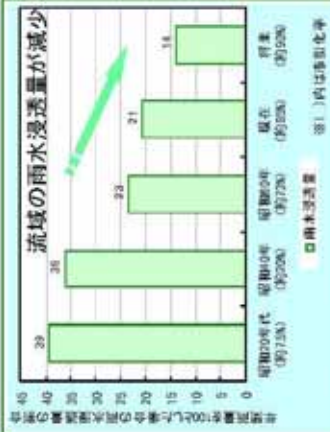
BOD値は下水道処理水中のアモンニア性窒素等に起因するN-BODの割合が大き



※全BOD = C-BOD + N-BOD  
C-BOD: 河川水中の有機物に起因するBOD  
N-BOD: 河川水中のアモンニア性窒素(NH4-N)等の無機物に起因するBOD

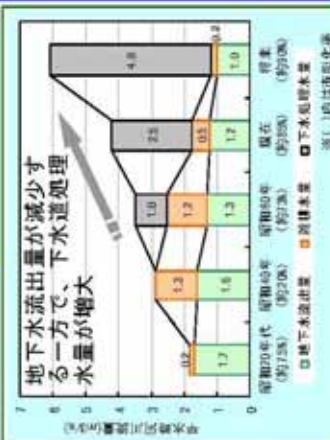
鶴の子橋地点では環境基準値を超過

河川流量に占める下水道処理水量の割合が増加



流域における雨水浸透量の変遷

※上記グラフは、シミュレーション結果をもとに作成。



「鶴の子橋」における流量内訳の変遷

※上記グラフは、シミュレーション結果をもとに作成。

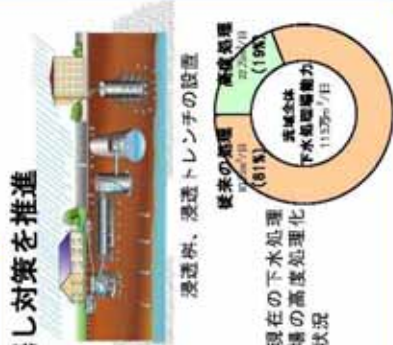
流域の関係者が連携した水質改善が必要

河川管理者、下水道管理者などが連携し対策を推進

- 地下水の保全涵養や湧水の復活
- ・ 浸透機能を持つ緑地の保全
- ・ 雨水浸透枳、雨水浸透トレンチの設置

○ 下水の水質改善

- ・ 家庭や市街地からの汚濁負荷量の削減
- ・ 下水道の高度処理化によるBOD値の更なる低減



## 流域に残された自然環境



ホトケドジョウ



ギバチ



中流域でみられる農地



ヨコハマナガゴミムシ



中流域にみられるオアシ  
ヨシ群落



タコノアシ



コアジサシ

## 市民との協働、環境学習、ふれあいの場づくり



鶴見川流域センター  
(平成15年9月開館)



クリーンアップ活動



水辺プロムナード



梅田川 水辺の楽校  
(平成9年4月開校)



イカダ  
フェスティバル



スロープ

## 河川環境の保全の基本方針

- ・多様な動植物の生息・生育環境の保全・回復に努めるとともに、河川などで水と緑のネットワークの形成を図り、自然環境を次世代に引き継ぐよう努める。
- ・良好な河川景観を維持するとともに、川と調和した沿川のまちづくりを関係機関と連携し進め、良好な河川景観の形成を図る。
- ・流域の水循環系などの理解を促す学習を促進するため河川とのふれあいの場の整備・保全を図る。